

令和6年度 第2回浜北特別支援学校運営協議会 議事録

静岡県立浜北特別支援学校

1 日 時 令和6年9月4日（水）午前9時から11時まで

2 参加者

○学校運営協議会委員

- ・岩崎久和（元県立学校長）
- ・平松勇人（PTA会長）
- ・大城直明（中瀬4区自治会長）
- ・池田文彦（株式会社ソミックエンジニアリング 代表取締役社長）
- ・加藤祐司（社会福祉法人みどりの樹 管理者）
- ・平田浩二（浜松市浜名区 区振興課 課長補佐）
- ・大木茂（聖隷こども家庭総合支援センター長）

○教職員

校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、自立グループ主任、教務課長、防災課長

3 次第

(1) 会長挨拶

- ・社会的、自然的現象がすべて学校に結びついている。働き方改革、ハラスメント、地震の対応などを見直すべき。学校の中からの対策に加え、学校外から見た対策も必要なため、委員の方々からは御意見をいただきたい。

(2) 校長挨拶

- ・今回は「防災」をテーマに。先月に南海トラフ地震臨時情報が出され、想定していない状態が次々に生じた。8月9日は教職員を自宅待機とした。また、9月の台風対策として9月3日を休校とした。子どもたちの命を守る、職員を守るという視点が重要。

(3) 校内見学

○防災の観点から校舎外・校舎内の両方を見学した。

(4) 協議

① 防災について

○防災課長から教職員の働き方の現状と今後の改善について説明。

- ・避難時間が長くなることも想定して、簡易のカップがあるとよい。(E 委員)
- ・キャスター付きの机や椅子については後付けできるストッパーがあるので、必要なら活用してほしい。(E 委員)
- ・非常電源としての蓄電池はどれぐらいの時間使えるか？ 発電機のパワーは？ 実際に使ってみた方がよい。(C 委員)
 - 確認する。
 - 区役所にある自家発電は3日間持つが、ガソリンを追加すれば延長もできるようになっている。(F 委員)
- ・福祉避難所になっているが、ここには市に連絡があった人を振り分ける。福祉避難所としての備蓄は言ってもらえれば市で対応する。各区に災害マニュアルがある。市との連携が必要だが、担当である社会福祉課には連絡できる。(F 委員)
- ・市は福祉避難所についての広報をどう進めているか？(C 委員)
 - 現在、検討を進めている。
- ・この地区は北部中学校区であるが、そこで手を挙げたら福祉避難所には入れるのか？(C 委員)
 - 判断が難しい。入れる人は入れる。
- ・学校として、福祉避難所になっていることを周知しているか？(C 委員)
 - そこまではしていない。
- ・福祉避難所へのプロセスはどうなっているのか？(C 委員)
 - まずは学校の準備が1番。それが整ったら受け入れになる。
- ・災害用マンホールシステムについては、訓練時に地域の人も呼んで一緒にやるとよい。普段からそのスペースに車を停めないように。(D 委員)
- ・南海トラフ地震臨時情報が出された際、会社ではスマートフォンでリモート会議ができるようにしている。学校においてもそのようなことができるか？(D 委員)
 - 検討の余地があると思う。
- ・「アンピック」という職員個人の安否確認のシステムがある。(D 委員)

② 学校への必要な支援について(時間の関係で次回へ)

(5) その他

○第3回学校運営協議会は11月13日(水)午前9時から。